

日本 NPO センター
タケダ・いのちとくらし再生プログラム
「母との子の虹の架け橋」助成事業評価

2016 年 1 月 25 日

慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科

特任助教 伊藤 健

はしがき

本評価は、特定非営利活動法人日本 NPO センターがタケダ・いのちとくらし再生プログラムの一環として、特定非営利活動法人母との子の虹の架け橋に対して行った資金助成について、それらの助成がどのようにその後の事業活動に有効に活用されているか、ひいては受益者の便益にどのように貢献しているかについて把握し、より一層有効な支援事業を目指すため、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 11 月 30 日まで助成事業評価を実施した。本報告書はその評価結果をとりまとめたものである。

本評価は、日本NPOセンターより慶應義塾大学SFC研究所が受託し、以下の担当者によって実施された。なお、本評価は、SROI (Social Return on Investment : 社会的投資収益率) 手法を適用して実施された。

担当名氏名	所属先／役職
伊藤 健	慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 特任助教 (特活) SROI ネットワークジャパン代表／

本評価の実施に際しては、日本NPOセンターより種々のご指導とご助言を、また特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋のご関係者の皆様からご支援とご協力を頂いた。ここに深謝したい。

2016年1月

慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科
特任助教 伊藤 健

目 次

第1章 釜石の女性を取り巻く現状と課題	5
第2章 特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋	15
1. 評価の背景と目的	15
2. 本評価において用いる手法とその特徴	15
3. 本評価の対象の概要と評価の範囲	16
4. 評価の実施プロセスとその結果	17
5. 総合評価	31
6. 評価を受けての提言	32
7. 本評価の制約と今後の課題	33
参考資料	34

第1章 釜石の女性を取り巻く現状と課題

第1章 釜石の女性を取り巻く現状と課題

1. 釜石市の被災地としての現状と課題

「母と子の虹の架け橋」が活動をしてきた釜石市（かまいしし）は、岩手県の南東部に位置し、三陸漁場と典型的なリアス式海岸を持つ市である。近代製鉄業発祥の地であり、最盛期の人口は9万人を超える（1963年住民基本台帳 92,123人）こともあったが、製鉄所の高炉の休止に伴い人口が減少し、震災前2010年3月末で40,338人、2015年3月末では36,078人となっているⁱ。

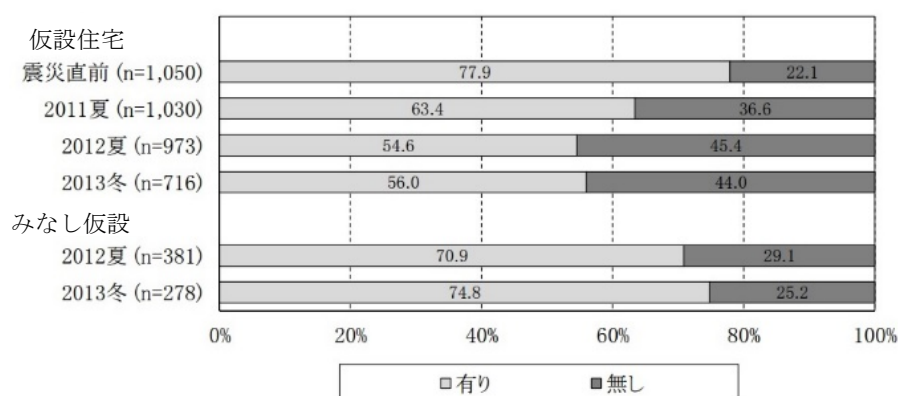
釜石市を襲った2011年の東日本大震災では、死者・行方不明者は1千名を超え、直後は1万人以上が避難生活を余儀なくされたⁱⁱ。4,011戸が被災し、2011年11月時点で3,102戸が応急仮設住宅での避難生活を送った。現在は、復興公営住宅や自力再建により仮設住宅で生活する住民は減ってきたものの、依然2,226戸が応急仮設住宅で生活しているⁱⁱⁱ。

釜石市の仮設住宅の世帯構成をみると、仮設住宅に入居し世帯が分かれたり、高齢者が津波被災によって亡くなるなどして祖父母との同居世帯が減少していることがわかる（表1）。

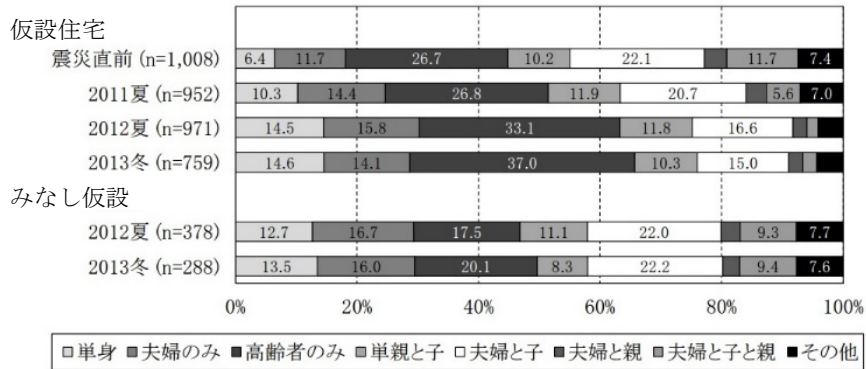
仮設住宅居住者の有職率は年々減少しており（表2）、金銭面での不安感を感じている人も多く、手持ち資金の課題や将来への不安は少なくない（表3）。

復興公営住宅の整備や自力再建する住民も少なくないが、復興公営住宅や賃貸での家賃負担や住宅購入などの資金、引っ越し費用などが確保できなければ仮設住宅から出ることは難しく、経済的な不安が大きい住民が多い。

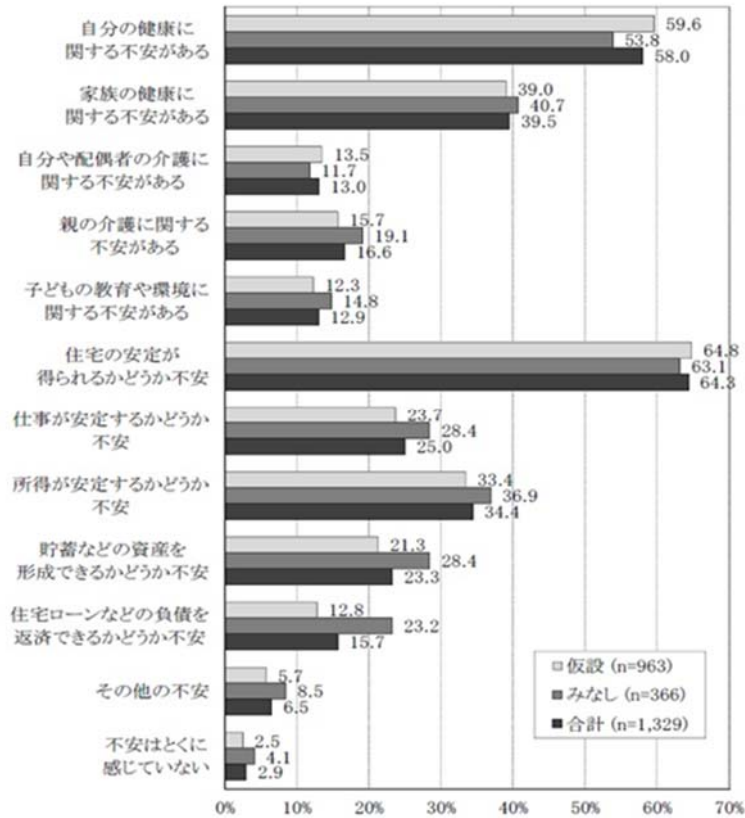
【表1：釜石市における祖父母との同居世帯】



【表 2：釜石市住民の家族構成】



【表 3：これからの生活に関する不安】



2. 釜石市の子育て支援

釜石市では、震災から4年が経った現在、有効求人倍率は増加し続け^{iv}、2014年3月に大型ショッピングセンターが建設されたことも要因となり、30名を超える保育待機児童が固定化している^v。これは釜石市に限ったことではなく、岩手県の沿岸地域（津波被災地域）に見られる傾向で、生活再建のための共働きが増えたことや、女性の働く場が増えたことが要因として考えられている。

釜石市には、幼稚園も4ヶ所あるが、津波被災によって統廃合が進んでおり定員増は見込めない。また、14時以降が預かり保育となり延長の費用がかさむこと、3歳からという年齢制限の2点が理由で利用者が増えていない。

他に保育所の一時預かり、幼稚園の預かり保育などの臨時の保育サービスもあるが、金銭負担が大きい、利用方法がわからない等の理由により臨時の就労や就職活動などの希望があっても利用者は伸びていない。

【表4・5：不定期に利用している保育事業／不定期の保育事業を利用していない理由】

選択肢	回答数(人)	比率(%)
保育所の一時預かり	45	5.2
幼稚園の預かり保育	67	7.7
ゆいっこサポート・センター	5	0.6
夜間養護等事業	0	0.0
ベビーシッター	0	0.0
その他	18	2.1
利用していない	668	76.6
無回答	79	9.1

有効票数 = 872

選択肢	回答数(人)
特に利用する必要がない	501
利用したい事業が地域にない	33
地域の事業の質に不安がある	20
地域の事業の利便性がよくない	32
利用料がかかる・高い	98
利用料がわからない	59
自分が事業の対象になるのかどうかわからない	55
事業の利用方法がわからない	106
その他	31
無回答	4

有効票数 = 668

【表6・7：今後の利用希望】

選択肢	回答数(人)	比率(%)
利用したい	344	39.4
利用する必要はない	422	48.4
無回答	106	12.2

有効票数 = 872

選択肢	回答数(人)	比率(%)
私用、リフレッシュ目的	200	58.1
冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等	261	75.9
不定期の就労	90	26.2
その他	19	5.5
無回答	6	1.7

有効票数 = 344

(出典：「釜石市子ども・子育てニーズ調査報告書」釜石市 2014年3月)

それ以外にも緊急時の預かり、送迎などを行う「ゆいっこサポートセンター」や幼稚園、子育て支援センター、ファミリーサポート制度などの制度があり、年々利用者は増加傾向にある。社会の仕組みとしての子育て支援ニーズが年々増加している(表8)。

【表 8：釜石の子育て支援施策】

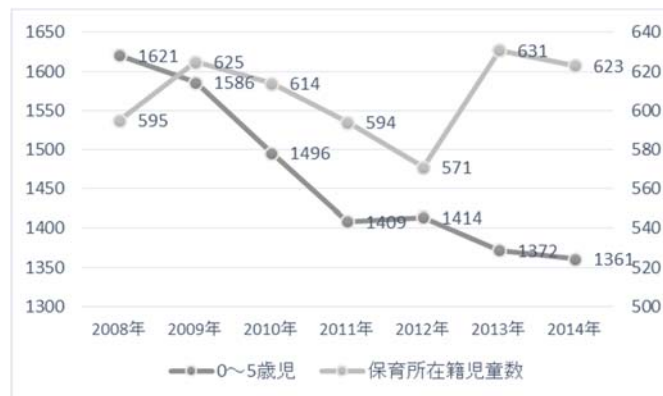
施設名	概要	対象
保育所	認可保育所8ヶ所【定員520人、在籍631人】、認可外保育所【定員15名】、事業所内保育施設2ヶ所【25年41名】	8週目～(2ヶ所のみ)他は3ヶ月～母親は1か月64時間以上就労
ゆいっこサポートセンター	緊急時の預かり、送迎などの子育てサポート	乳幼児から小学生
幼稚園	私立2ヶ所、市立2ヶ所【定員470人】	3歳～18:00預かり保育可
子育て支援センター	市内4ヶ所、親子で利用できる交流の場	親子
病後児保育事業	病気の回復期にある子どもを保育士・看護師によって看ることができる	1歳～小学校3年生、1日6人
児童館	市内4ヶ所	3歳～保育もあり

(出典：第4回釜石市子ども・子育て会議資料「釜石市子ども・子育て支援事業計画」)

3. 釜石市子ども・子育て支援事業計画の概要

待機児童などが生まれた状況を改善すべく、釜石市は2015年3月に釜石市子ども・子育て支援事業計画「釜石市子ども・子育て応援プラン」を策定した。その中では、特に「仕事と家庭生活の両立」を重点課題として掲げている。震災以前、釜石市では子どもの数は年々減少傾向にあり、そのため公設の保育所増設については慎重に対応してきた。そして、震災以降も定員以上の希望者がいても、一時的に既存の保育所の定員を増やし対応してきた。しかし、子どもの数が減っても、経済的な不安や地域の雇用などの要因により保育事業への要望は年々大きくなっていく一方であったため、2015年度以降は、待機児童解消に向け小規模保育事業や家庭的保育事業を増やすことを計画している。

【表 9：釜石市の0-5歳児童数と保育所在籍児童数の推移】



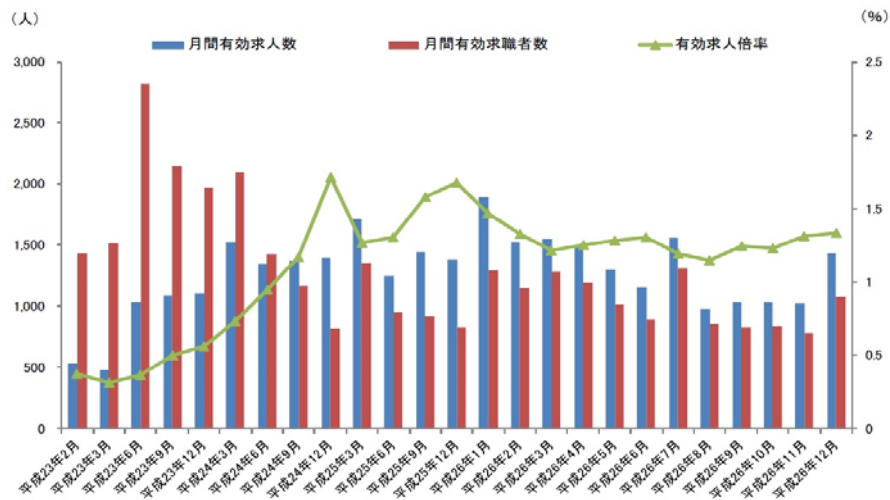
(出典：「釜石市子ども・子育て応援プラン(案)」釜石市)

4. 釜石市の女性の就労と職業教育

厚生労働省「被災3県の雇用状況」（2015年5月）によると、被災3県の有効求人倍率は震災後上昇し、岩手県では2015年5月現在1.20倍となっている。釜石市の有効求人倍率は2010年0.32倍であったが、2014年には1.16倍、2015年0.94倍と減少してきているものの、震災前の3倍と高い状況が続いている。

【表10：釜石公共職業安定所の月別求職・求人状況】

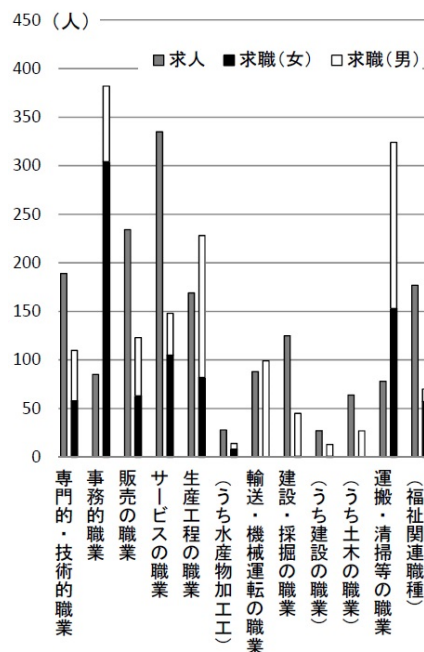
釜石公共職業安定所釜石本所(釜石市・大槌町)の月別求職・求人状況



出典：釜石公共職業安定所

※有効求人数：前月から繰り越された求人数と当月の新規求人数の合計数
 有効求職者数：前月から繰り越された求職者数と当月の新規求職申し込み件数の合計数
 有効求人倍率：求職者1人に対して何人分の求人があったかを示す指標

【表11：釜石市の求人・求職状況(2015年)】



釜石市職業安定所に出ている求人の傾向は、サービス業の求人が多く、次いで販売が多い。しかし、求人者の希望では、男性が運搬・清掃、女性が事務を希望している。女性が事務職を希望する大きな要因として、保育サービスは平日日中が多く、サービス業等時間や曜日が不規則な就業形態に対応できないことが挙げられ、求人側と求職者側のミスマッチが生じている。

他方、釜石市には高等教育機関がなく、大学、短期大学、専門学校等への進学を希望した場合、市外に出なければならない。また、市内にはパソコンスクールがなく、岩手県の職業訓練校（釜石校）があるのみとなっている。離職者への講座は、年2回の経理・パソコン実務・介護サービス・建築の4分野が実施されており、年間60名程度が受講している（表12）。訓練中は保育所が利用できないため、2015年度は母と子の虹の架け橋に託児サービスを依頼している。

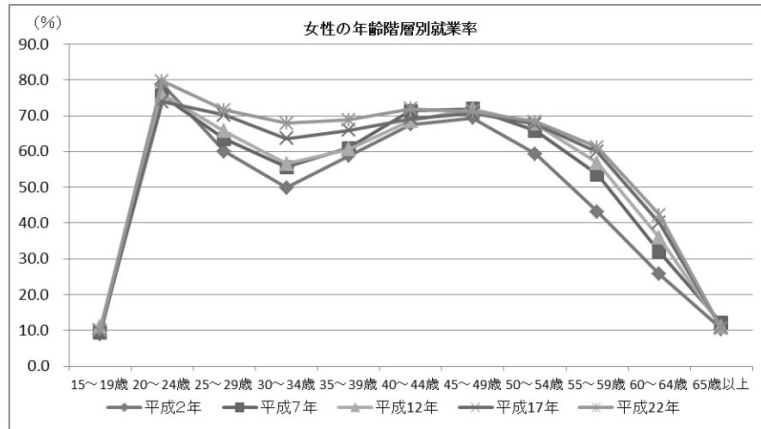
【表12：釜石市の職業訓練校の事業内容】

釜石地区									
平成26年度 離職者等再就職訓練事業計画									
●離職者を対象とした短期訓練コース(知識等習得コース3か月・6か月/資格取得コース2年(介護福祉士養成コース)です。 ※コースの内容は、予告なく変更する場合があります。応募の際はお近くのハローワークへお問い合わせください。 ※ホームページでは、訓練科名若しくはカリキュラム欄の「O」をクリックすると予定している訓練カリキュラムをご覧になることが出来ます。									
離職者等再就職訓練事業					(知識等習得3か月コース)				
番号	訓練番号	訓練科名	定員	カリキュラム	状況	募集期間	選考試験日	訓練期間	訓練場所
1	26-03-030	建設・揚重機械運転科	10名	O	募集終了	平成26年3月10日 ~ 平成26年4月30日	平成26年5月7日	平成26年5月14日 ~ 平成26年8月11日	(職)釜石職業訓練協会
2	26-03-031	ビジネスパソコン科	15名	O	募集終了	平成26年4月7日 ~ 平成26年5月23日	平成26年5月29日	平成26年6月4日 ~ 平成26年9月3日	(職)釜石職業訓練協会
3	26-03-032	経理実務科	15名	O		平成26年10月1日 ~ 平成26年11月7日	平成26年11月13日	平成26年11月19日 ~ 平成27年2月18日	(職)釜石職業訓練協会
平成26年度 日本版デュアルシステム訓練事業計画									
●就労経験の少ない方を対象としたコース(日本版デュアルシステム訓練 4か月)です。 ※コースの内容は、予告なく変更する場合があります。応募の際はお近くのハローワークへお問い合わせください。 ※ホームページでは、訓練科名若しくはカリキュラム欄の「O」をクリックすると予定している訓練カリキュラムをご覧になることが出来ます。									
日本版デュアルシステム訓練事業					(企業実習を通じた実践的な訓練を有効的に実施し、安定的な職業に就きたい方など 4か月コース)				
番号	訓練番号	訓練科名	定員	カリキュラム	状況	募集期間	選考試験日	訓練期間	訓練場所
1	26-13-075	OA実務科	15名	O	募集終了	平成26年7月1日 ~ 平成26年8月15日	平成26年8月20日	平成26年8月26日 ~ 平成26年12月25日	(職)釜石職業訓練協会
2	26-13-074	介護サービス科	15名	O	募集終了	平成26年5月26日 ~ 平成26年7月14日	平成26年7月17日	平成26年7月29日 ~ 平成26年11月28日	(職)釜石職業訓練協会

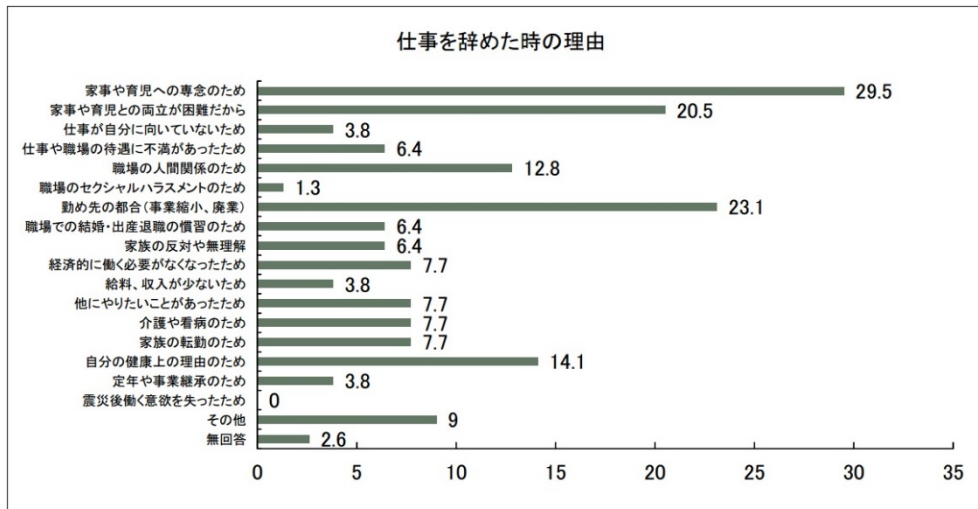
(出典：「岩手県委託訓練実施計画（離職者等を対象とした職業訓練実施計画）」岩手県)

釜石市の女性は、この20年で結婚・出産・育児の年齢でも就業継続する割合が増加しているものの（表13vi）、退職を経験したことがある人は8割を超えており少なくない。主な退職理由では、家事・育児に専念する・両立が困難であるためとの回答が多く、女性が仕事と家庭を両立させることは容易ではないことがうかがえる（表14vii）。

【表 1 3 : 釜石市の女性の年齢階層別就業率】



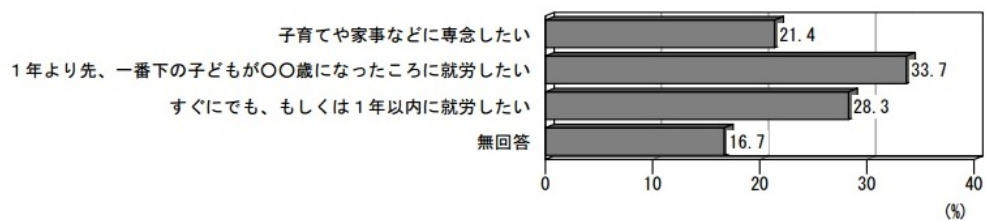
【表 14 : 釜石市における女性の退職理由】



また、母親層のうち、仕事をしていない母親の6割以上が就労を希望している。これは、子育てをする上で金銭的な不安が大きいというアンケート結果とも一致する結果となっている。

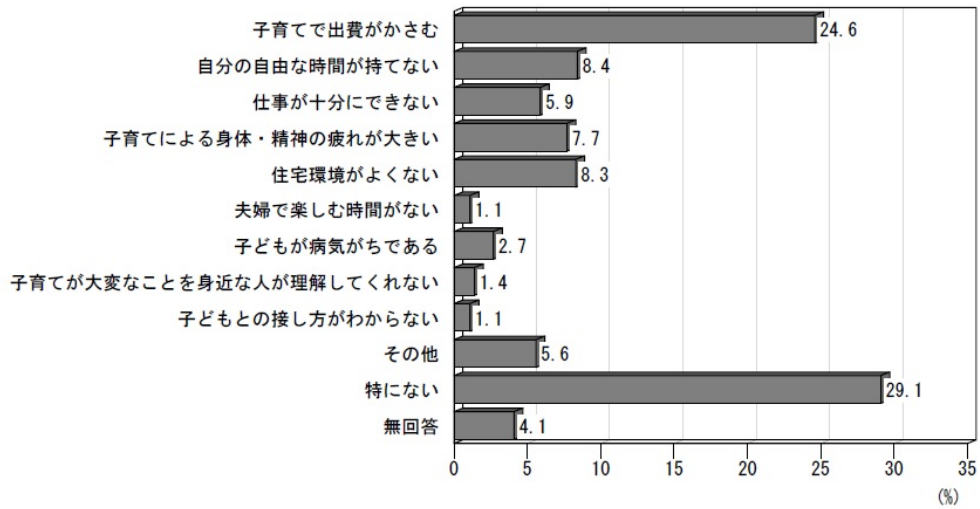
【表 1 5 : 母親の就労希望】

母親の就労希望



【表16：子育てをする上での不安や悩みごと】

子育てをする上での不安や悩みごと



これらから、釜石市の子育て女性が震災以降、子育てに加えて被災による金銭的な負担による不安から就労を希望しているものの、保育サービスの状況から、求人があっても雇用条件が合わないために就労が難しいことがわかる。

第 2 章 特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋

第2章 特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋

1. 評価の背景と目的

本評価は、特定非営利活動法人日本 NPO センターが、タケダ・いのちとくらし再生プログラムの一環としての特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋に対する助成事業の評価を行うにあたり、慶應義塾大学 SFC 研究所へその評価を委託し、2013 年度に 645 万円で提供された資金助成が、どのようにその後の事業活動に有効に活用されているか、ひいては受益者の便益にどのように貢献しているかについての事業評価を実施するものである。

2. 本評価において用いる手法とその特徴

本評価においては、社会投資収益率 (Social Return on Investment, SROI) 法を用い、特に事業に対する投資対効果にフォーカスを置き、助成事業の社会的インパクト評価を実施する。

(1) SROI の手法としての歴史とその発展の経緯

社会投資収益率 (SROI) は、1997 年から 1999 年にかけて、米国 Roberts Enterprise Development Fund (REDF) によって開発された社会性評価の手法である。米国で開発されたこの手法は、後に欧州へその主要な研究開発の舞台を移し、特に 2008 年から 2011 年に英国内閣府が実施したプロジェクトによってその標準化と事例への適用が進められた。2008 年には SROI 手法の普及を目的とする SROI Network が英国において設立され、2013 年現在では 20 カ国以上に 800 名以上の会員を持つ国際組織となり、日本にも加盟組織である SROI ネットワークジャパンが存在する。

欧州での SROI を単なる第 3 者評価の手法としてあつかうのではなく、常に主観性が介在する社会的インパクトについて、ステークホルダー参加型の分析プロセスを設定することで、社会的価値についての一定の客観性への担保を行う等の手法的発展が見られる。2010 年以降には、官民連携の社会的投資スキームであるソーシャル・インパクト・ボンドの内部ロジックとして応用されるなど、政策的な応用も見られている。

(2) SROI の手法的特徴

SROI は、社会的な活動に対して投じられた資金やリソースによるプロジェクト実施の結果、発生したアウトカムの社会的な影響について貨幣価値換算による定量的評価を行う。このプロセスにより、貨幣価値に換算されたプロジェクトの価値が定量的に表され、インプットに対するアウトカムの投資対効果が 1 : X の比率で示される。

異なる領域の活動の SROI の比較については条件の設定が必要ではあるが、SROI を活用した評価によって、異なるプロジェクトの社会的インパクトを比較でき、投入 1 あたりの成果という意味において、どのプロジェクトが最も成果を挙げたかについて、比較できることにその特徴がある。

また、SROI 分析によって作成される「インパクト・マップ」によって、そのプロジェクトが産出する社会的価値について、インプット、アウトプット、アウトカムという段階ごと、ステークホルダーごとにその内訳が明らかにされ、事業が期待する事業成果（アウトカム）の最大化のために、どのようなプログラムの実施が望ましいかについて明らかにする一助ともなる。

つまり、SROI は単なる事業の社会的インパクトの評価ツールとしてだけではなく、事業の社会的インパクトを最大化するためのマネジメント・ツールとしての活用も可能であるというところにその特徴がある。

また、ステークホルダー参加型の評価モデルとしての性格から、インパクトの算出プロセスを通じて、助成機関や投資家、事業実施を行う非営利組織等、行政、地域住民等、事業に関わる異なるステークホルダーの、事業の社会的価値に対する合意が形成されることもその 1 つの特徴である。これらの合意が得られることによって、事業実施者にとっては事業の価値を対内的・対外的に説明することが容易になり、将来的な事業への再投資や助成、またボランティアによる協力への合意が得られやすくなる。

3. 本評価の対象の概要と評価の範囲

(1) 対象の概要

本評価の評価対象は主に釜石地域を中心に、女性のエンパワーメント、就業支援等を目的に託児事業や各種の講座等の活動を展開する特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋(若菜多摩英理事長)である。母と子の虹の架け橋は、2011 年の東日本大震災に際して、2011 年 4 月から避難所での妊産婦の支援活動を、契機に 2012 年 9 月に NPO 法人として設立され「ママと子らの笑顔を広げ、心身の安定及び就労の促進と生活復興に寄与すること」を目的に活動している。

(2) 本評価の範囲と母と子の虹の架け橋の活動の展開時期について

母と子の虹の架け橋は、2011 年 9 月からは避難所から仮設住宅に開設した「ママハウス」にその活動拠点を移し、母子のケア、しゃべり場、各種講座やプログラム実施、相談事業を実施、講座はベビーダンスやヨガ、クッキングといった場作り、娯乐的なものから秘書検定等のスキルのなものまで多岐にわたり実施している。

2012 年 5 月からは釜石市内に託児施設「虹の家」を開設、女性の就業促進のための託児事業を開始。平日午前 9 時から 17 時、午前 7 時半から、午後 6 時半までの延長を含めて対応。2014 年には C 型託児施設「ベビーホーム」を定員 15 名で新設、法令上の義務付けではないが、保育士・看護師各 1 名を雇用するなど、ケアのクオリティに主眼を置いた運営を行い、釜石の子育て世帯に対する支援を実施している。

これらの活動の変遷は、第1章で詳説した釜石の被災地としての社会ニーズの移り変わりを反映するものであり、支援の対象も被災者から釜石の子育てコミュニティ全体へと拡大し、事業の性格も緊急支援的なものから恒常的な女性の社会的経済的自立に対する支援へと軸足を移している。

(表17：母と子の虹の架け橋の活動フェーズと活動内容、主要な成果)

時期	第1期(2011年4月から8月) 5ヶ月間	第2期(2011年9月から12年4月) 8ヶ月間	第3期(2012年5月から 2014年11月) 2年7ヶ月間
主要な目的	避難所での妊産婦の緊急支援	仮設住宅での母子支援	釜石市における子育て支援
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 震災に際して、避難所での妊産婦が十分に保護されていないことから、活動を開始 産前から産後1ヶ月まで妊産婦7組、家族を含め30名に対するケアを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 釜石市の仮設住宅内に「ママハウス」を開設 午前10時から16時まで母子のケア、しゃべり場、各種講座やプログラム実施、相談事業を実施。 年間延べ母子家族を含め2000名程度が利用。(平均すると1日10名程度)講座はベビーダンスやヨガ、クッキングといった場作り、娯楽的なものから秘書検定等のスキルのなものまで多岐にわたり実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 託児施設「虹の家」開設、女性の就業促進のための託児事業を開始。 平日午前9時から17時、午前7時半から、午後6時半までの延長を含めて対応。児童3名に対してスタッフ1名体制。 2014年にはC型託児施設「ベビーホーム」を定員15名で新設、法令上の義務付けではないが、保育士・看護師各1名を雇用している。
主要な成果	<ul style="list-style-type: none"> 避難所での妊産婦の基本的な権利を保護 	<ul style="list-style-type: none"> 被災者が避難所から仮設住宅へと居住の場を移したのに伴い、支援活動の場も移動 「ママハウス」は6ヶ月で延べ4000名の参加者を得た スタッフとなる参加者も 	<ul style="list-style-type: none"> 被災者だけではなく、釜石における子育て世帯のニーズである、就業と子育ての両立ニーズに応えるため、2箇所の託児施設を開設 「虹の家」は月あたり120名、1日あたり平均10名の保育を実施、釜石の子育て世帯の就業を支援

4. 評価の実施プロセスとその結果

(1) 評価のスケジュールとプロセス

本評価は、以下のスケジュールに従って実施された。

日程	実施項目
2014年6月	評価の基本設計
2014年8-12月	ステークホルダーへの訪問とヒアリング、データの提供要請
2015年1月	アンケートの実施によるデータの収集
2015年3-4月	データに基づく分析
2015年7-9月	報告書ドラフトの作成
2015年10月	日本NPOセンターへの報告
2015年12月	最終報告書の作成
2016年2月以降	最終報告会の実施(予定)

(2) 事業評価の枠組み

本評価は、以下の分析的枠組みに基づいて行われた。

<1> 財務諸表と事業報告書および先行研究資料による分析

SROI 法による評価に先立ち、母と子の虹の架け橋から提供された財務諸表、事業報告書等および、釜石の被災地支援に関する先行研究資料をもとに、事業の概況についての理解を行い、現地の社会課題等の分析を行った。

<2> SROI 法による社会的インパクト分析

本評価では前述の SROI 法に基づき、事業の社会的インパクトを算出する。SROI では、以下の 6 つのプロセス¹にもとづき、インパクトの評価を行った。

1. プロジェクトの範囲を決定し、キーとなるステークホルダーを特定する
2. プロジェクトの結果として起こる変化（アウトカム）をマッピングする
3. プロジェクトのアウトカムを検証し、その社会的な価値評価を行なう
4. その他のファクターによるインパクトを除外し、プロジェクトの実質的なインパクトを確認する
5. SROI を算出する
6. 結果をレポートし、継続的使用のプロセスを確立する

<3> インタビューによる定性的評価

前述の財務諸表と事業報告書の分析で得られた仮説と、SROI 法に基づくインパクト仮説にもとづき、複数のステークホルダーからのインプットを以って検証を行うために、事業者（母と子の虹の架け橋）、受益者である施設利用者、地元の非営利組織、行政等に対するインタビューを行った。

(3) 評価プロセス

<1>財務諸表と事業報告書による分析

本評価では、2011 年度から 2013 年度までの 3 年間の財務諸表を入手し、時系列での分析を試みた。母と子の虹の架け橋における収入は、おもに行政や助成財団からの助成金で構成されていることが理解された。

<2>SROI による日本 NPO センター助成に対する投資対効果分析

続いて、SROI 手法に基づき、事業の投資対効果、また特に日本 NPO センターによる助成がそれら効果に対してどれだけの貢献があったかについての分析を行った。

【①スコープの設定と、ステークホルダーの特定】

¹ The Guide to Social Return on Investment, 2012 に基づく

本評価においては、日本 NPO センターによる助成に対するインパクトを評価するとの位置づけから、母と子の虹の架け橋の事業全体にスコープを設定し、設立から現在までの約 4 年間を評価対象期間とした。その中でも特に、SROI 手法による評価については 2013 年度のインパクトを評価した。

関係するステークホルダーについては、母と子の虹の架け橋、プログラム参加者、行政関係者、現地 NPO を含む関係者のインタビューによって、釜石地区の妊産婦、行政、母と子の虹の架け橋、日本 NPO センターの 4 者をステークホルダーとして定義し、下図のようにアウトカムを定義した。

【表 18：ステークホルダーとアウトカムの定義】

受益者	アウトカム	財務プロキシ	検討事項
釜石地域における妊産婦	精神的安定(エンパワーメント) 託児サービスへのアクセスの獲得 就労等につながる資格取得・スキル獲得 上記による就労	<ul style="list-style-type: none"> 託児サービスが存在しない場合の行政コストの節減 無料講座受講による経済便益 就労による収入の増加 	<ul style="list-style-type: none"> 各種活動がどのように就労に対してインパクトがあるのか、寄与率等についてのサーベイの実施が必要
地域の非営利組織	ママサポーターの育成による人材供給	—	リクルーティングや人材育成の効果についての金銭価値に換算したインパクトの算定が必要
行政	就業による税収の増加	<ul style="list-style-type: none"> 所得税・地方税の税額の増加 	就労実績についてのデータを基に換算する
中間支援組織 (日本NPOセンター)	--	-	リソース提供者としての位置づけ

【②アウトカムの特定と位置づけ (マッピング)】

次に、想定したステークホルダーとアウトカムについて、初期、中間、最終のそれぞれの段階における発現に分けて整理をした。

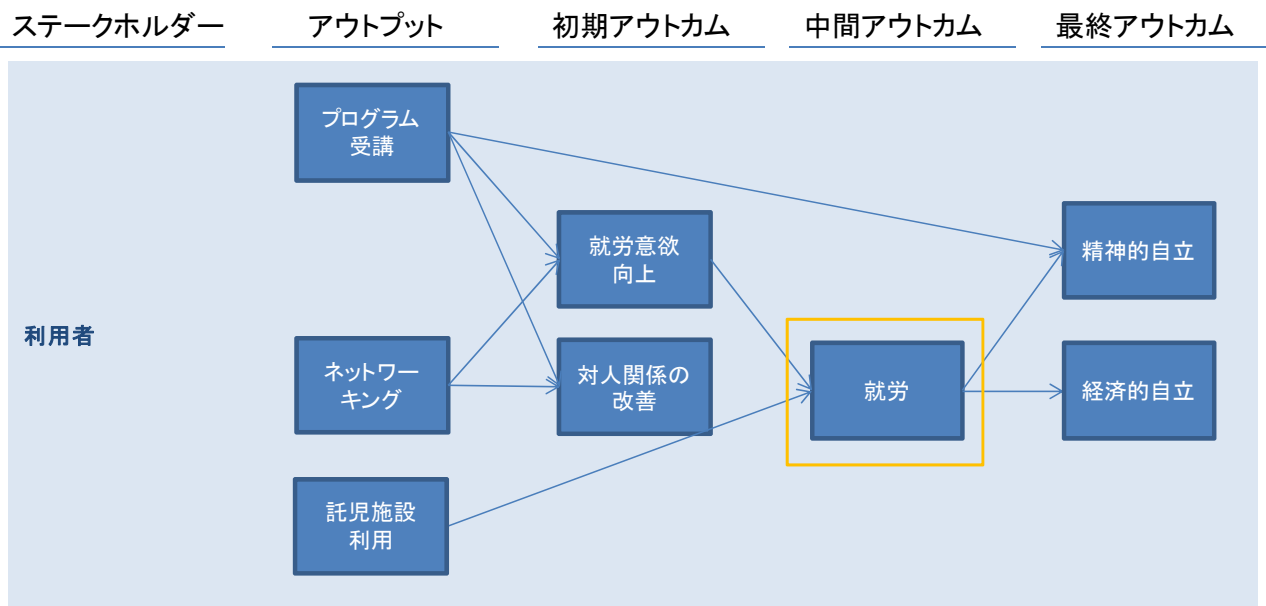
【表19：アウトカムのマッピング】

ステークホルダー	インプット	測定指標	アウトプット	測定指標	初期アウトカム	測定指標	中間アウトカム	測定指標	最終アウトカム	測定指標
釜石地区の妊産婦・ママ	—	—	託児サービスの利用	利用回数	自由時間の獲得	獲得時間	求職活動の増加	応募数	就労	収入の増加
	—	—	スキル育成プログラム参加	参加回数	スキルの獲得	(要検討)				
行政	—	—	—	—	—	—	—	—	税金の増加	増加税額
	—	—	—	—	—	—	—	—	社会保障等公的コスト低減	コスト減少額
	—	—	—	—	—	—	—	—	公的保育事業のコスト節減	コスト節減額
日本NPOセンター・武田薬品工業	助成金運営コスト	助成事業実施コスト	—	—	—	—	—	—	—	—
母と子と虹の架け橋(事業主体)	自主財源による人的・資金的リソース投入	自主財源	プログラム実施	各実施回数	ママサポーターの獲得	活動人数	—	—	活動の自立化	—

母と子の虹の架け橋の活動においては、特に、各種講座の実施による女性のエンパワーメントやスキル向上が活動の一つの柱になっている。こうした活動は経済的・社会的自立についての意識を喚起し、また活動に関連するネットワークやコミュニティを形成するうえで重要な役割を果たしている。

それに対して、「虹の家」や「ベビーホーム虹」の運営は、直接的に就労等のための託児サービスを提供するという意味で、こうした異なる活動の間の因果関係について、整理したのが次項(図1)である。

【図1：アウトプット、アウトカムの因果関係（アウトカムマップ）】



このアウトカムマップは、「母と子」から提供された資料と、今回の SROI 評価のために実施された、「母と子」スタッフ、利用者、行政や関連するステークホルダーに対するヒアリングを通じて作成された。ヒアリングにおいては、アウトプットとしてプログラムの受講、また各種のイベント開催による利用者によるネットワーキング、託児施設の利用の 3 つがあげられた。本評価では、それらの活動の結果として、対人関係の改善、就労意欲の向上を認知レベルでの初期アウトカムとした。

次に、事業の行動レベルの「中間アウトカム」としては、初期アウトカムの託児施設利用や、各種プログラムによる就労意欲の向上の結果としての就労を位置づけた。就労の結果、「母と子」が最終的に目指す、釜石地域における女性の経済的自立と精神的自立が達成されるというロジック・モデルが理解された。

また、これらのロジック・モデルに基づいて、今後収集が必要とされるデータについて、次項の表 20 の通りに整理を行った。

【表 20 : 分析に必要とされるデータ】

	調査項目	内容	データ等入手方法
受益者	属性情報	年齢分布・障害種別・経済状況・家族構成、公的サービス利用状況等	事業主体から入手
	プログラム等参加データ	プログラム参加回数等	受益者データから入手
	課題についての現状データ(ベースライン)	受益者の抱えている課題の種類と分布	事業主体から入手、受益者へのサーベイ実施等による入手
	プログラム参加による効果	プログラム参加によるスキル向上、精神的変化、就業等の経済的变化による上記課題の解決実績についてのデータ	受益者に対するサーベイ・インタビューの実施
事業主体	財務情報	財務諸表・事業予算と実績	事業主体から入手
	プログラム情報	提供プログラム、利用者数	事業主体から入手
	ママサポーター活動実績	ママサポーターの活動実績、時間数、活動プログラムなど	事業主体から入手

【③アウトカムの検証】

アウトカムの検証プロセスとして、図1のアウトカムマップに基づいて表21の財務プロキシ(係数)を設定した。

就労については、前掲したとおり、託児施設の利用による就労と、各種講座の利用による就労の2つのパスがあると想定されるが、各種講座については、ヨガ等のセルフ・ケアやネットワークングが主眼に置かれたものが多く、秘書検定等の講座についても、参加者のコミュニティ醸成や意識喚起等の大きな役割と効果は想定できるものの、そこからの就労についての実績等が見いだされなかったため、就労へのインパクトからは除外した。

ただし、「母と子」が運営する託児施設での採用を前提にした保育士講座については、例えば2015年度には10回の講座に約15名が参加、13名が「ベビーホーム虹」にて就労等の大きな実績を上げている。しかしながら、助成年度の2013年度には保育士講座は実施されていなかったため、これについても今回の評価では対象外とした。

その上で、就労とそれに関連する表20の通りの収集の必要なデータについて定義を行った。これらのデータについては、事業者から入手するものについては、「母と子の虹の架け橋」から入手したほか、特に事業の利用者に対するアンケートを配布・回収し、100名の配布者に対して、47名の有効回答を得た。有効回答率が低かった理由としては、仮設住宅等に入居していた利用者が転居したり、また震災復興の過程で転居した利用者が多く、郵送での到達率が低かったことが主な理由であると想定される。これに対して、追加でウェブサイト上のアンケートを作成し、インターネットでの回収も図ったが、こちらは数件の回収にとどまった。

【表 2 1 : アウトカムに対する財務プロキシの設定】

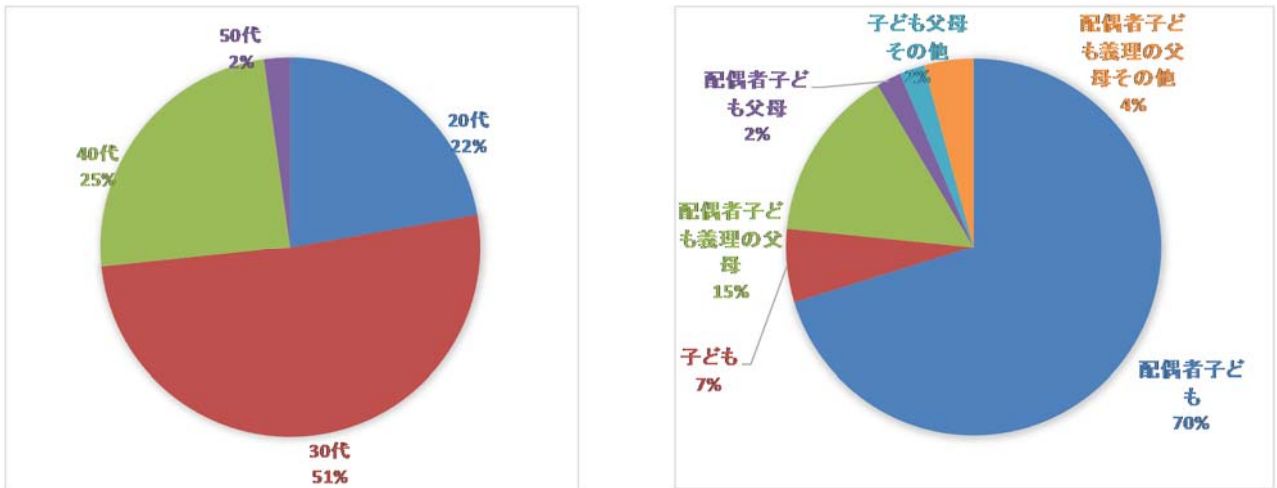
受益者	アウトカム	財務プロキシ	検討事項
釜石地域の女性	託児サービスによる就労	<ul style="list-style-type: none"> 全体の31%の就労が託児サービスに由るものだと想定し、釜石の30-40代女性の平均収入から推計 	
	講座受講による就労	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座が実施されているが、2015年度に実施された保育士以外は明確な就労との因果関係を見出すことが難しい 	助成年度の2013年度には保育士講座は実施されず 2015年度には10回の講座に約15名が参加、13名が「ベビーホーム虹」にて就労
行政	就業による税収の増加	<ul style="list-style-type: none"> 国税・地方税の税額の増加 	就労実績についてのデータを基に換算する
	認可保育園の定員増加のコスト回避	<ul style="list-style-type: none"> 認可保育園への補助金によって算出 	児童受け入れ実績によって算出する

これらのアンケートで得られた情報を、特に就労について分析したのが以下の表 22～表 41 である。

(1) 利用者のプロフィール

「母と子」の活動に参加する利用者については、30代(51%)と全体の約半数を占め、それに次いで20代(22%)、40代(25%)が全体の構成のほとんどを占めた。また、家族構成については、配偶者と子どもの核家族が全体の70%を占めた。子どもと本人のみの単身家庭も全体の7%おり、仕事と子育ての両立をはかる核家族・単身家庭の子育てニーズに「母と子」の活動が答えていることがうかがえる。

【表 2 2 - 2 3 : 利用者のプロフィール】

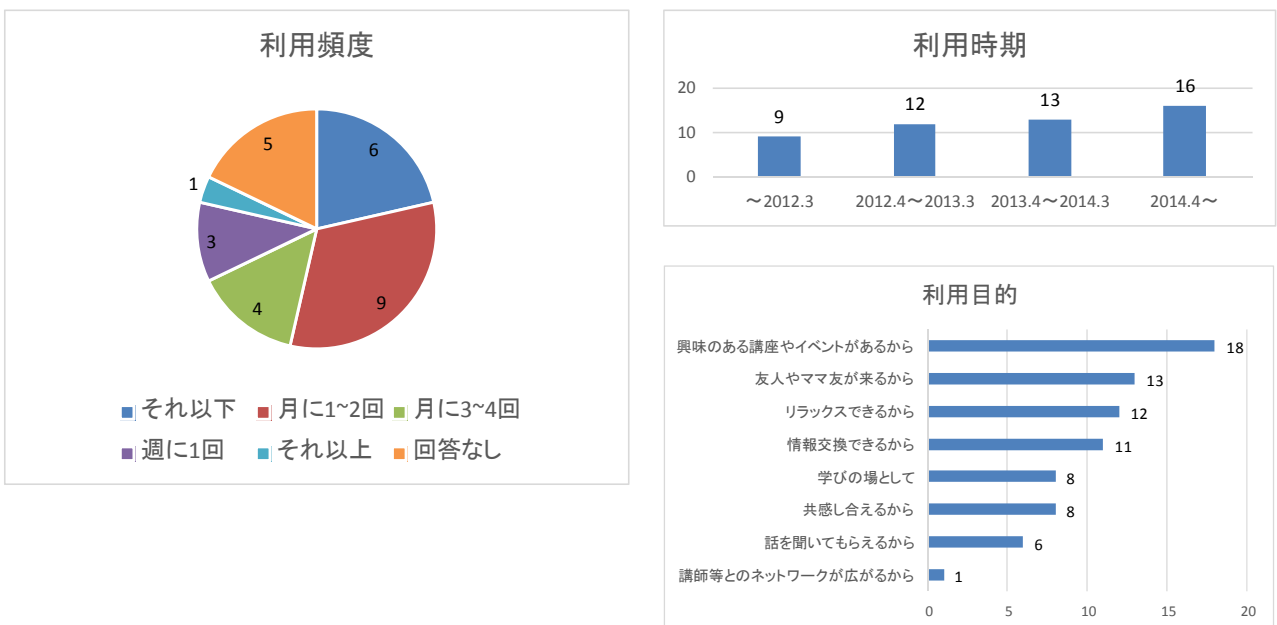


(2) ママハウスの利用状況

「母と子」の活動の一つの柱である「ママハウス」の活動については、月に1回かそれ以下の参加者が過半数を占めた。それに次いで、月に3-4回から週に1回程度の参加者が25%を占めている。

参加の目的としては、「興味のある講座やイベントがある」「友人やママ友が来るから」を全体の65%の参加者が参加目的として挙げている。また、それに次いで、「リラックスできるから」「情報交換できるから」といったコミュニティとしての役割を期待していることが伺える。

【表 2 4 - 2 6 : 「ママハウス」の利用頻度、時期と利用目的】

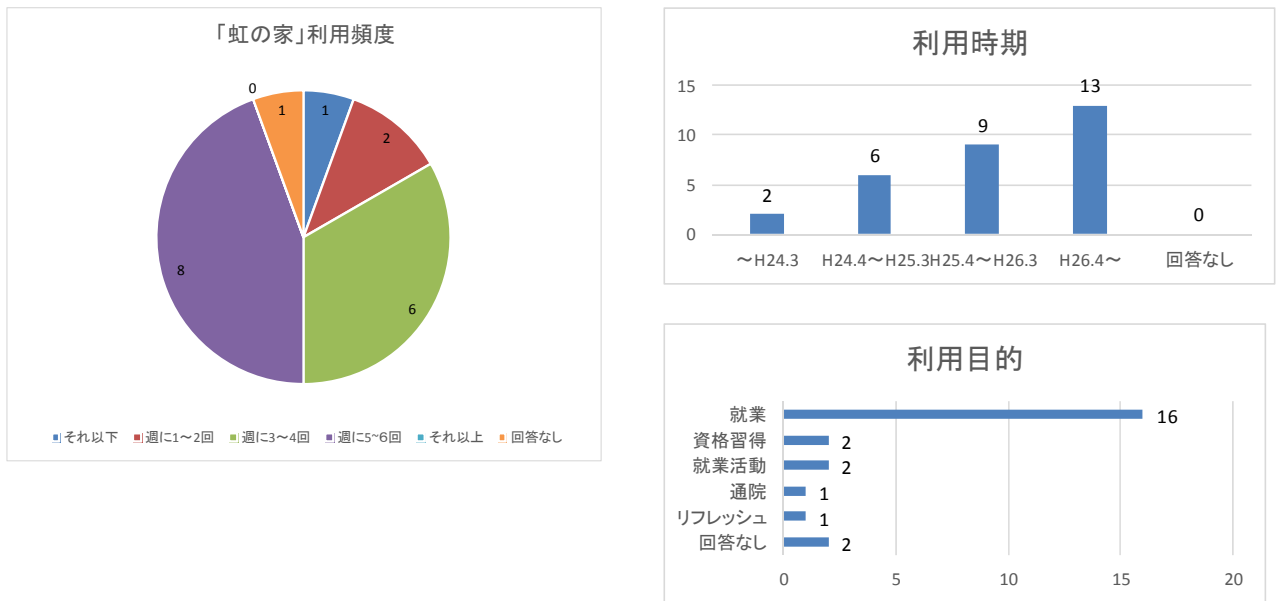


(3) 「虹の家」利用状況

「母と子」もう一つの活動の柱である託児施設の運営について、2つある託児施設のうち、「虹の家」についての利用状況について、アンケートで確認を行った。

「虹の家」については、利用頻度は週3回から5回が全体の80%以上を占め、理由については大多数が「就業」を挙げるなど、就業をするための子育て支援の対応として、「虹の家」が機能していることが理解できた。

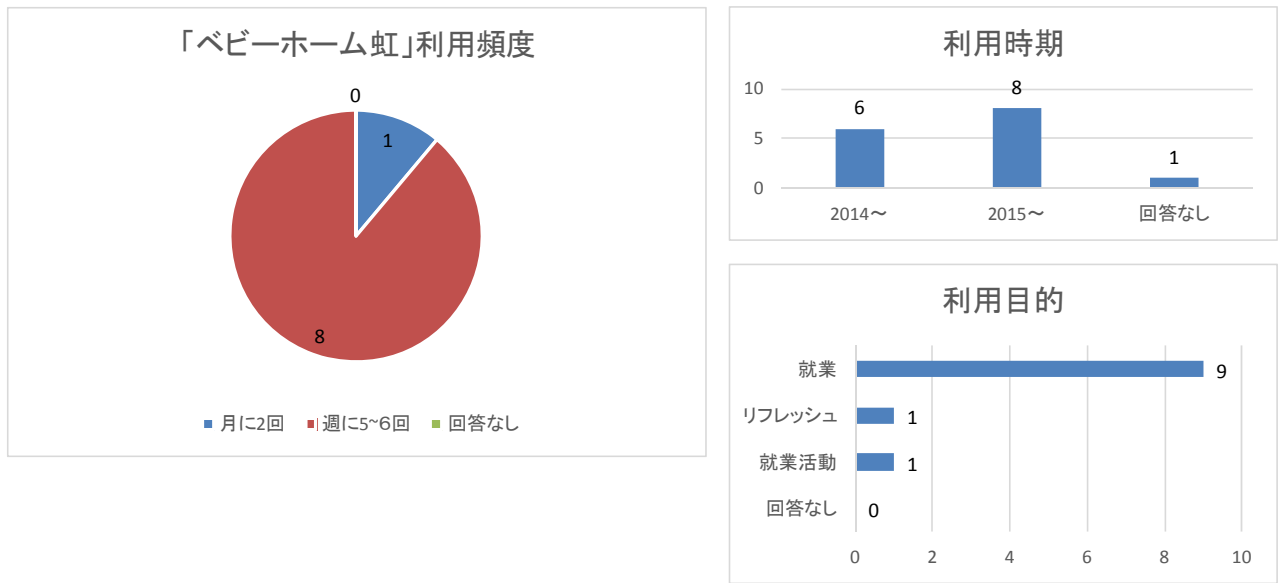
【表24-26：「虹の家」の利用頻度、時期と利用目的】



(4) 「ベビーホーム虹」利用状況

「母と子」が運営している2か所の託児施設うちの一方、「ベビーホーム虹」についても、同様な質問項目でのアンケートを実施した。「ベビーホーム虹」の利用頻度については週に5-6回の定常的な利用者が大多数を占め、目的についても同様に就労が大多数を占めた。こちらにおいても、託児事業が就労の支援に効果的に活用されていることが伺えた。

【表 2 7 - 2 9 : 「ベビーホーム虹」の利用頻度、時期と利用目的】

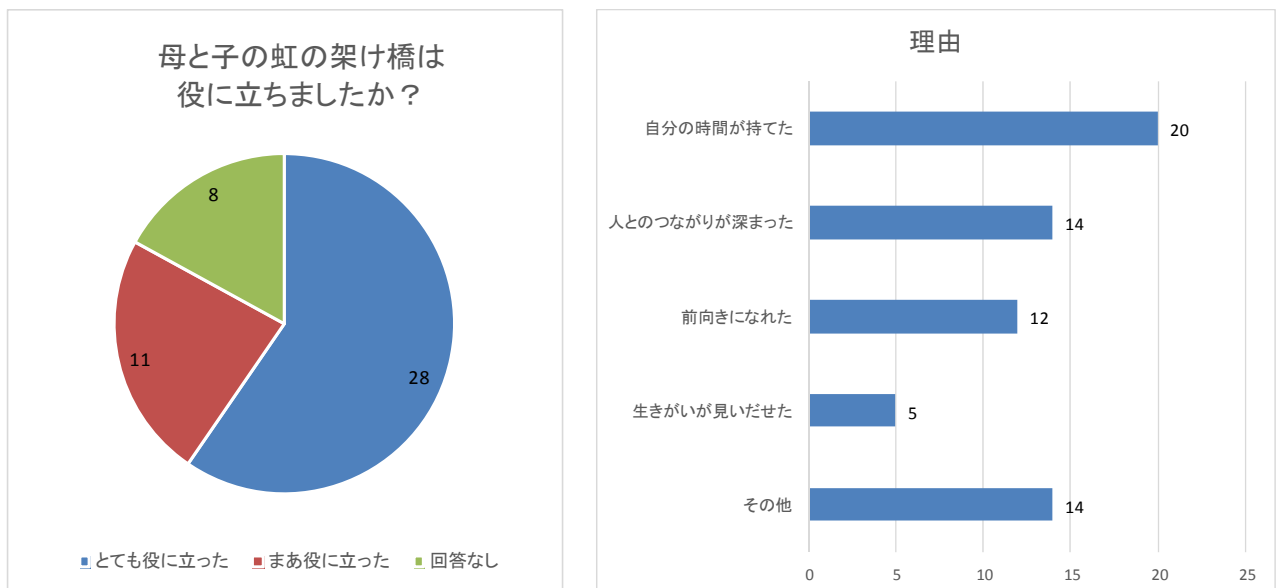


(5) 「母と子の虹の架け橋」利用満足度

次に、「母と子」の活動全般に対する満足度についての回答を検討した。

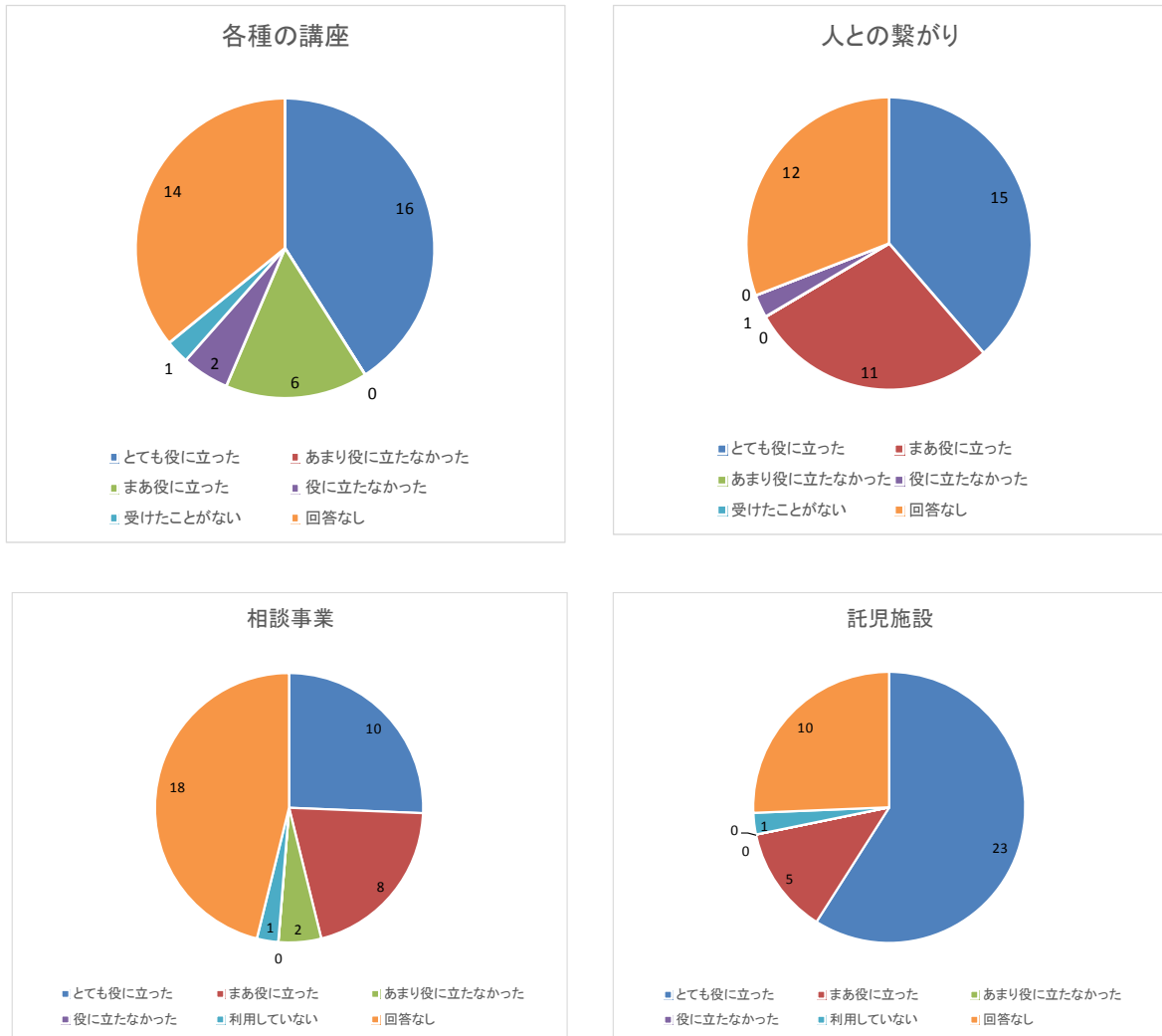
活動の満足度については、「役に立った」「まあ役に立った」を合わせて 8 割以上の回答者が満足を示しており、その理由としては、「自分の時間が持てた」「人とのつながりが深まった」「前向きになれた」等が回答の多数を占め、託児事業や各種講座等によるネットワーキングが有効に機能していることを示している。

【表 3 0 - 3 1 : 「母と子」の利用満足度とその理由】



また、これらの活動を「各種の講座」「人との繋がり」「相談事業」「託児施設」に分けて、それぞれの活動に対して同様なスケールでの満足度を図ったところ、「託児施設」が最も高い満足を示し、それに次いで「各種の講座」「人との繋がり」があげられ、「相談事業」は相対的に多くの回答者が「回答なし」としたが、これは、相談事業への満足度が低いというよりも、参加者数が相対的に少ないからではないかと推察される。

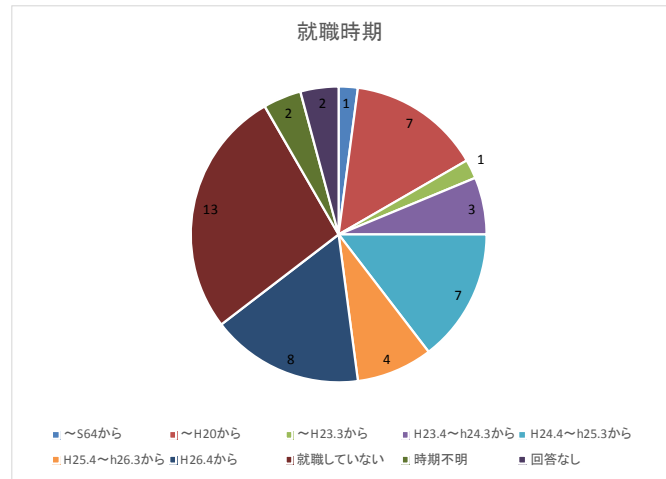
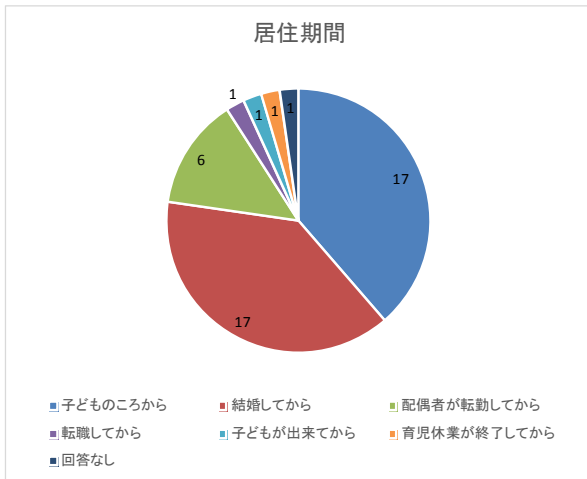
【表 3 2 - 3 5 : 「母と子」の事業別の満足度】



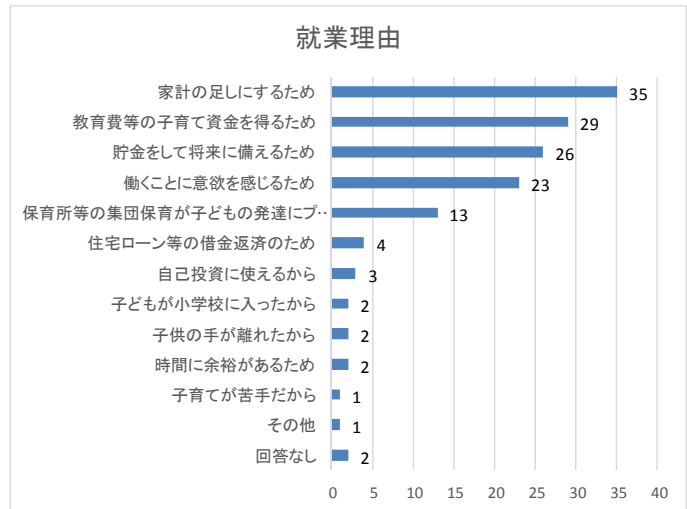
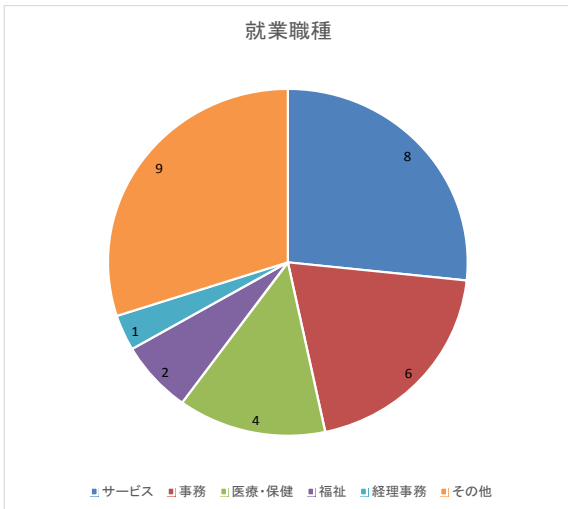
(5) インパクト評価のためのデータ収集

次に、インパクト評価のためのデータ項目に着目すると、利用者の居住期間は、「子どものころから」と「結婚してから」が全体の 75%以上を占めている。これは、「母と子」の利用者が、定住人口であることを示している。また、就業理由については、「家計の足しにするため」「教育費等の子育て資金」「貯金をして将来に備える」が上位 3つの理由を占め、自己実現のための就業というよりも、経済的な理由でのニーズであることを示している。職種については「サービス」「事務」「医療・保健」「福祉」が全体の 70%程度を占める。

【表36-37：「母と子」の事業参加者の居住期間と就職時期】



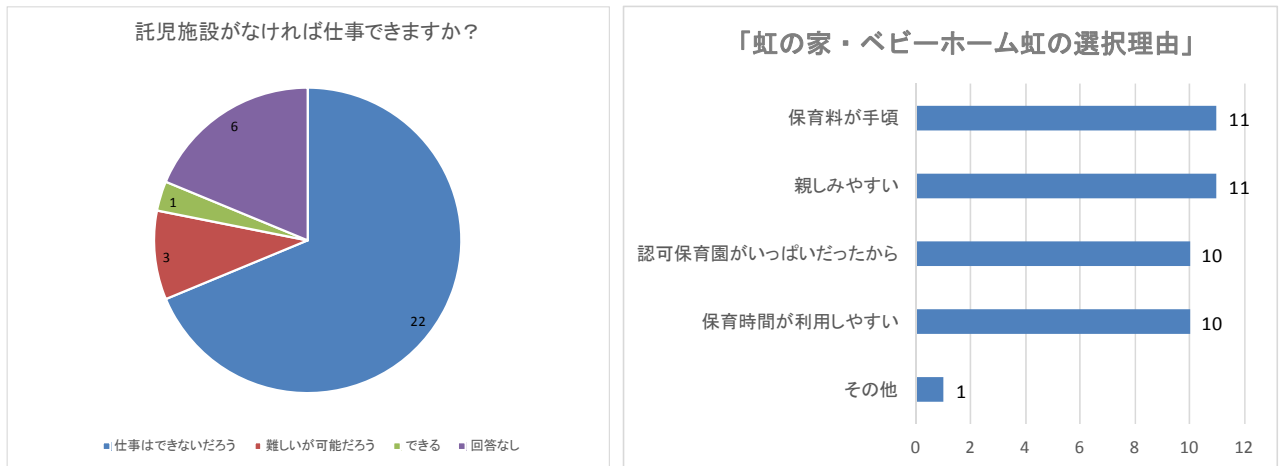
【表38-39：「母と子」の就業者の職種と理由】



【④アウトカムの価値評価とその他のファクターによるインパクトの除外】

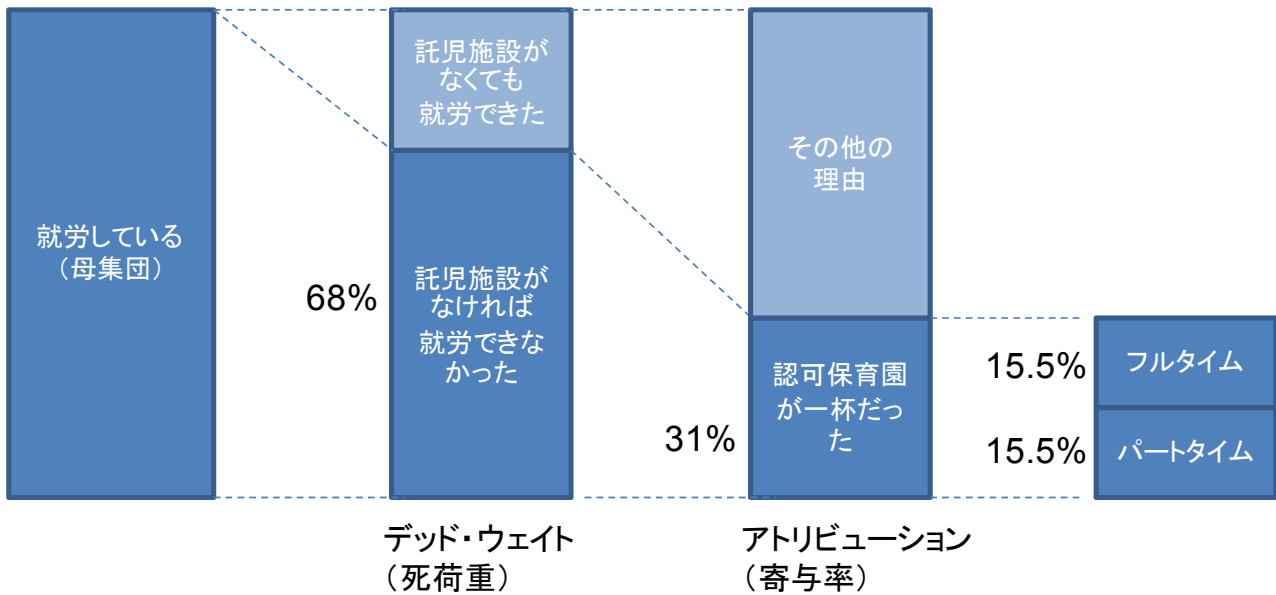
このように、「母と子」が提供するサービスを利用する利用者のプロフィール、ニーズの実態、満足度等について理解したうえで、これらのサービスがどのような価値を提供しているかについて、データをもとに分析を行った。

【表 4 0 - 4 1 : 託児施設の必要性和「虹の家・ベビーホーム虹」の選択理由】



アンケートにおいて、「託児施設がなければ仕事ができますか？」という質問に対して「仕事はできないだろう」と回答した回答者が全体の 68%を占め、また、「虹の家・ベビーホーム虹」の選択理由について「認可保育園がいっぱいだった」というほかに選択肢のない、やむを得ない状況だった利用者が全体の 31%に上った。

【表 4 2 : 就労実態についての集計結果】



(注: デッド・ウェイトとは、事業実施がなくても発生したインパクト。アトリビューションとは、インパクト実現に貢献した他の事業も勘案した場合の寄与率を指す)

こうした就労実態についてのデータを分析すると、以下のようなことが理解できる。まず、回答者の中で就労している 47 名のうち、「託児施設がなければ就労できなかった」と回答したものが 68%おり、託児施設がなくても家族の協力等によって就労できていただろうと推測される 32%の利用者を除外した、「母と子」のサービスによって恩恵を受けている利用者进行特定できる。

次に、その 68%の回答者のうち、さらに「認可保育園がいっぱいで、「母と子」の託児施設以外には

選択がなかった」とした回答者を特定し、全体の31%の利用者がこれに該当した。つまり、この31%の利用者が、「母と子」のサービスがなければ、就労できなかった純粋なインパクトに相当すると考えられる。

さらに、この31%の利用者について、就労している仕事がパートタイムか、あるいはフルタイムかについての設問により、どのような就労のインパクトを生み出しているのかについて推計した。

【⑤社会投資収益率（SROI）の算出】

こうして取得したデータに基づいて、受益者の便益を貨幣価値換算した形で算出したのが表43である。まず、釜石地域の女性の便益については、アンケートで得た純粋なインパクトの割合(31%)に対して、2つの託児施設の合計利用者数(50名)を乗じて「母と子」のサービスがなければ就労できなかったであろう人数(15名)を得て、それに、パートタイム・フルタイムの割合(それぞれ50%)に基づき、釜石での標準的な賃金を賃金統計から得て(フルタイム191,000円/月)、パートタイム時給850円、週18時間と想定)をかけて合計の便益を算出した。

また、行政の便益については、同様に、上記のような就労状況に対して、どの程度の税収の増加があるかについて、所得税を算出した。加えて、もし「母と子」のサービスがなければ、負担をする必要のあったと思われる認可保育園の定員増加のコストについても算出し、加えて行政の便益とした。

こうした算出されたインパクトは、釜石地区の女性の便益が1年間で2,269.8万円、行政の便益を所得税の増加分124.9万円、認可保育園のコスト回避を1,188.7万円と算出、合計が3,583.4万円となった。

【表43：インパクトの算出】

受益者	アウトカム	数量 (2013年度)	財務プロキシ	合計金額
釜石地域の女性	託児サービスによる就労	2拠点合わせて50名×31%=15名	<ul style="list-style-type: none"> フルタイム：岩手県・女性・30-40代の平均賃金191,000円 パートタイム：平均的な賃金時給850円と想定し、週18時間×4週=61,200円と換算 	2,269.8万円
	講座受講による就労	N/A	N/A	N/A
地域自治体	就業による税収の増加	上記15名の収入をもとに算出		124.9万円
	認可保育園の定員増加のコスト回避	就労を目的に申し込みをした187名をフルタイム換算	<ul style="list-style-type: none"> 受入実績：0歳児 20%、1歳児 28%、2歳児 49%、3歳児 3%をもとに助成金の金額換算を行う 	1,188.7万円
総計				3,583.4万円

これに対して、インプットについては、日本NPOセンター「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」による助成金645万円を含む、2013年の総事業費1,666.6万円²をインプットとすると、2013年度

² 2013年の事業成果には、2012年度の事業による成果も含まれているが、ここでは「2013年度の事業実施がなければ、そもそも事

単年度の SROI は 2.15 となり、本事業の社会的投資収益が算出された。これは、本事業には、1 万円の投資（助成）あたり 2.15 万円の社会投資収益があるということを意味している。

【表 4 4：社会投資収益率（SROI）の算出】

総現在価値	3,583.4	(万円)
投資	1,666.6	(万円)
社会投資収益率	2.15	倍

5. 総合評価

総合的には、今回の事業評価の対象となった特定非営利活動法人「母と子の虹の架け橋」は、助成や投資に見合う社会的インパクトを創出し、主たる受益者である釜石地区の女性たちの経済的・社会的自立に貢献している様子が理解できる。

直接的には「母と子」が運営する託児事業がその直接的なインパクトを創出しているが、同時に日本 NPO センターの助成金で運営している各種プログラムも、女性たちのコミュニティの醸成やネットワークの構築に貢献していることが伺える。

母と子の虹の架け橋の生み出した社会的インパクトは大きく以下の 2 点である。

(1) 釜石地区の子育て世代女性のエンパワーメント

「母と子の虹の架け橋」の事業ミッションは、「ママと子らの笑顔を広げ、心身の安定及び就労の促進と生活復興に寄与すること」であるが、「母と子」の活動は、避難所、仮設住宅から釜石市内へとその活動範囲を広げ、ミッションを実現するための子育て世代女性のエンパワーメントのための活動を展開してきた。

活動範囲を広げる中で、仮設住宅に建設した「ママハウス」を拠点として展開される各種講座や相談事業は、「母と子」の中核的事业であり、女性の社会的・経済的自立へのエンパワーメントを意図している。こうしたエンパワーメントについて、今回は事後評価ということもあり、そのインパクトの定量化は難しいが、事例としては、こうした事業の参加者から、スタッフとして事業に参加するようになったり、講師として講座を担当するようになった事例も数例あり、その成果を伺うことができる。

また、後述する就労によるインパクトについても、こうしたエンパワーメントの結果、子育て期の女性は家庭にいるべきだとする釜石の伝統的な社会では必ずしも奨励されないことも多い、子育てと就労の両立について、前向きに挑戦しようとする仲間を得て、経済的自立へと歩みを進める利用者もいることは事実だろう。

(2) 母と子の虹の架け橋による託児事業によるインパクト

一方、より直接的にインパクトを生み出しているのが、託児事業による就労の支援である。「母と子」が運営する 2 か所の託児施設は、その利用者の雇用を直接的に実現しており、同時に女性たちの社会

業運営の継続ができない」という観点から、2013 年の事業成果は 2013 年のインプットに帰属するものとして SROI を算出した。

的な自立も実現していると言える。調査では「ここがなければ就労できなかった」というような直接的なフィードバックも得ることができた。

就労によるインパクトは、受益者本人とその家庭に対する経済的なインパクトをもたらすだけではない。釜石市の行政にとっては、税収の増加を生み出す以外に、財政に対する長期的な懸念から、待機児童が発生していることを理解しながらも、長期的な人口減少を考慮すると、認可保育園の定員を増やせないという課題がある。「母と子」による託児施設の設置・運営は、釜石市行政にとっては、認可保育園に対する助成金や、本来市の職員として雇用しなければならない保育士やスタッフの人件費について、「母と子」が外部の資金や受益者の保育費によって一時的に肩代わりすることによって、市の保育政策を支えるのみならず、長期的な財政の健全化に貢献しているとも言える。

こうした2つの領域でのインパクトは、先述の SROI 評価による分析にて述べられた通り、資金拠出を上回る社会的インパクトをもたらしている。

6. 評価を受けての提言

(1) 特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋に対する提言

本評価を受けての、特定非営利活動法人母と子の虹の架け橋に対する提言は以下のとおりである。

- ネットワークやエンパワーメントのためのプログラムと、託児事業との関係性の明確化をする必要があるのではないかと。すでに保育スタッフの養成講座等を実施するなど、その兆しは見えるが、「ママハウス」で実施する事業と、託児事業との直接的な関係性について検討する必要があるのではないかと。
- 母と子の虹の架け橋が、理事長のリーダーシップにより、現場のニーズに即した事業展開を行っている点は注目に値するが、事業の継続性という観点からは、現理事長の若菜氏の個人的な力量による事業展開となっているリスクがあるという見方もできる。改善方法としては、スタッフの育成・登用に力を入れ、権限を委譲する体制を構築することが必要ではないかと。
- また、保育スタッフの養成講座に見られるように「出口」のあるトレーニングプログラムに大きなニーズがあることが分かっているので、将来的なプログラムの方向性としては、就業に直結する種類のプログラムの実施が期待されているのではないかと。

(2) 日本 NPO センターに対する提言（助成事業の在り方について）

- 大震災の発生に際して、企業 CSR と協働する形でのプログラムをいち早く立ち上げ、NPO のネットワークを生かしての助成プログラムの運営は、母と子の虹の架け橋の成長に見られるように、現地のニーズに即した支援を着実に行う NPO の重要なリソースとなっている
- ニーズに即した活動そのものには、具体的な達成目標や、成果をはかる指標の設定が難しい場合もあるが、緊急支援から脱却しつつある 2 期目、3 期目といった長期的な支援を行うに当たっては、成果指標の設定が必要なのではないかと

7. 本評価の制約と今後の課題

本評価では、対象事業についての社会的インパクトを分析・評価してきたが、実際には限られた情報や受益者へのアクセスの制約、時間的制約等の、現実的な制約要因のもとに実施された。以下、調査の制約要因と、今後の可能性と課題について述べる。

(1) 評価の制約要因

- 本評価に使われたデータは必ずしも完全なものではなく、特に実施したアンケートについては、限られたサンプル数をもとにした推計となっている。
- 長期的な質的なインパクト、例えば利用者の精神的なエンパワーメントや、その就業への影響等については、それを裏付けるデータを取得することが難しく、評価の対象としていない。
- 評価対象は2013年度の事業によるインパクトを対象としており、それ以前、あるいはそれ以後の活動については評価の対象としていない。

(2) 今後の可能性と課題

また、今回の事業評価の教訓に基づき、こうした定量的な社会的インパクト評価を活用することによって実現する可能性と、その実現に向けての今後の課題は以下のとおりである。

- 日本 NPO センターにとっては、今後、同様な評価を行い、データの蓄積を行うことによって、事業間の社会的インパクトの比較が可能になり、助成事業間の社会的インパクトについて、相対的なパフォーマンスの比較評価の分析ができる可能性がある。
- これらデータや分析手法を日本 NPO センターにおける助成金プログラムの運営に組み込むことで、助成プログラムにおける案件の審査に活用し、SROI 手法による事前評価を行うことが可能である。これらの事前評価は、事業の審査そのものの参考とすることができる他、事業の実施によりどのような成果が期待できるかについて、事業開始前に事業計画に基づいた分析を行い、定量的な社会的インパクトの把握を行うことで、事後評価のベンチマーク基準とすることができる。
- これらの評価の結果を助成先団体に適切にフィードバックを行うことにより、助成先の団体の経営改善に活用し、より大きな事業成果を達成することが可能である。
- 上記の可能性の実現のためには、定量的インパクト評価が、単なる事業成果を事後評価で第三者的に判断するものではなく、社会的価値の最大化のために、組織運営上も活用でき、また社会的価値を潜在的な協力者やドナー、受益者等とコミュニケーションをはかってゆく上で重要なツールであるということの社会的な認知を広め、評価の重要性について、助成先事業を含めた広範なステークホルダーに対しても理解を働きかけてゆくことが今後の課題と言える。

以上

参考資料

【参考資料1：アンケート】

平成 27 年 1 月 12 日

特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋
理事長 若菜多摩英
釜石市平田 5-84-5 平田第 6 仮設団地 24-5
電話・FAX:0193-55-5422
メール：mamahouse.heita@gmail.com

「母と子の虹の架け橋」利用者アンケート

日頃、「母と子の虹の架け橋」の事業への御協力、ご支援いただきまして、ありがとうございます。

本アンケートは、当法人のこれまでの活動を振り返り、今後も釜石市において“母と子の笑顔が広がる”事業を行う参考とするために、子育て世帯の女性を対象に実施するものです。

全ての項目に回答をご記入いただき、**2月10日**までに各施設のスタッフまで提出ください。

自由回答欄についても、できるだけ具体的にご回答頂けると大変助かります。

また、同様なアンケートは <http://GOO.GL/p49SY9> (p のみ小文字)からオンラインで PC、携帯電話からも利用可能です。こちらも是非ご活用下さい。皆様には大変お忙しいところ恐縮ではございますが、本アンケートにご協力いただけますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。(本アンケートで回答いただいた内容につきましては調査の目的以外では使用致しません)

問1 あなた自身について

以下の中から、あなたについて該当するものを選んでください。

性別 (男 ・ 女)

年代 (20 代 ・ 30 代 ・ 40 代 ・ 50 代 ・ 60 代以上)

同居家族 (配偶者 ・ 子ども ・ 父母 ・ 義理の父母 ・ 祖父母 ・ その他)

問2 「母と子の虹の架け橋」への参加状況について

2-1 「母と子の虹の架け橋」の活動や、施設を利用したことがありますか？

利用したことのある施設に○をつけ、利用期間、利用回数を教えてください。

ママハウス

利用期間 _____年____月頃～ _____年____月まで

利用頻度 週に ____回 ・ 月に____回 ・ それ以下

参加・利用の目的(該当するものすべてに丸を付けて下さい。)

- ・ 興味のある講座やイベントがあるから
- ・ 友人やママ友が出来るから
- ・ 話を聞いてもらえるから
- ・ リラックスできるから
- ・ 講師等とのネットワークが広がるから
- ・ 情報交換できるから
- ・ 学びの場として
- ・ 共感し合えるから
- ・ その他 ()

虹の家

利用期間 _____年____月頃～ _____年____月まで

利用頻度 週に ____回 ・ 月に____回 ・ それ以下

利用の主な目的

- ・ 就業
- ・ 就職活動
- ・ 資格取得
- ・ リフレッシュ
- ・ 通院
- ・ その他 ()

ベビーホーム虹

利用期間 _____年____月頃～ _____年____月まで

利用頻度 週に ____回 ・ 月に____回 ・ それ以下

利用の主な目的

- ・ 就業
- ・ 就職活動
- ・ 資格取得
- ・ リフレッシュ
- ・ 通院
- ・ その他 ()

2-2 あなたの生き方・親子のきずなを深めるなどに、「母と子の虹の架け橋」は役に立ちましたか？

とても役に立った ・ まあ役に立った ・ あまり役に立たなかった ・ 役に立たなかった

2-3 (2-2でとても・まあと回答した方を対象に)役に立ったと思える理由は何でしょうか？

自分の時間が持てた ・ 生きがいが見い出せた ・ 人とのつながりが深まった ・ 前向きになれた
その他()

2-4 (2-3で役に立ったと回答した方を対象に)どの活動が、どのように役に立ちましたか？

該当するところに○を付けて下さい。

- 各種の講座 (とても役に立った ・ まあ役に立った ・ あまり役に立たなかった ・ 役に立たなかった)
- 人との繋がり(とても役に立った ・ まあ役に立った ・ あまり役に立たなかった ・ 役に立たなかった)
- 相談事業 (とても役に立った ・ まあ役に立った ・ あまり役に立たなかった ・ 役に立たなかった)
- 託児施設 (とても役に立った ・ まあ役に立った ・ あまり役に立たなかった ・ 役に立たなかった)

問3 お住まいについて

3-1 現在は釜石市にお住まいですか？（ はい ・ いいえ ）

3-2 (3-1で「はい」の方のみ) 居住期間について

子供のころからずっと ・ 就職してから ・ 結婚してから ・ 転職してから
配偶者が転勤してから ・ その他

問4 現在のお仕事の状況について

4-1 現在、仕事をしていますか。（ はい ・ いいえ ）

「はい」の方は、現在の仕事の就職時期・勤務時間・雇用形態・業務の種類に○をつけてください。

就職時期（ _____年_____月～ ） 勤務時間（ フルタイム ・ パートタイム ）

雇用形態（ 正規雇用 ・ 非正規雇用 ・ 臨時雇用 ）

業務の種類

事務 ・ 経理事務 ・ 医療、保健 ・ 福祉 ・ サービス

その他(_____)

4-2 4-1で、「いいえ」の方のうち、今後就労を希望される方にお聞きます。

希望される就業の形態と業務の種類について教えてください

就業の形態

就職時期（ 今すぐ ・ 子育てが少し落ち着いてから ）

勤務時間（ フルタイム ・ パートタイム ）

雇用形態（ 正規雇用 ・ 非正規雇用 ・ 臨時雇用 ）

業務の種類

事務 ・ 経理事務 ・ 医療、保健 ・ 福祉 ・ サービス

その他(_____)

4-3 現在、仕事をされている・今後就業を希望する理由に、○を付けて下さい。

(該当するもの全てに丸を付けて下さい。)

貯金をして将来に備えるため ・ 働くことに意欲を感じるため ・ 家計の足しにするため
住宅ローン等の借金返済のため ・ 教育費等の子育て資金を得るため
働いている人が多く世間体のため ・ 時間に余裕があるため ・ 自己投資に使えるから
子育てが苦手だから ・ 子育てより働くことを選んだ ・ 子供の手が離れたから
保育所等の集団保育が子どもの発達にプラスと思ったから ・ 子どもが小学校に入ったから

その他()

4-4 (託児施設を利用している方に)もし、「虹の家」「ベビーホーム虹」がなかったら、子育てをしながら仕事をすることは可能でしょうか？

できる ・ 難しいが可能だろう ・ 仕事はできないだろう

4-5 「虹の家」・「ベビーホーム虹」を選択した理由をお聞かせください。

保育料が手頃 ・ 保育時間が利用しやすい ・ 親しみやすい

その他()

問5 就業への課題について

今後、あなたが就業する・仕事を続けるためにはどのような課題がありますか。
また、外部の支援として、どのようなものがあつたら良いですか。

具体的に困っていること・希望など自由に記入をお願いします。(例 病児保育が利用しにくい・・・)

・ご本人のこと：

・仕事に対して

・子育てに関して

家庭的なこと：

社会的なこと：

問6 「母と子の虹の架け橋」では色々な各種の講座を実施していますが、あなたが今就労に必要な講座・訓練などの希望を教えてください。

問7 今後の「母と子の虹の架け橋」に対してご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力大変ありがとうございました。

【参考資料2：アンケート自由記述欄の回答】

問 5 就業への課題について、今後あなたが就業する・仕事を続けるためにはどのような課題がありますか。また、外部の支援として、どのようなものがあったら良いですか。

【ご本人のこと】

- 事務職をしたいがパートであるかどうか
- 体力面、ブランクがある
- 時間がない
- 病院では、母乳育児をすすめているのに保育園ではミルクじゃいけないところが多い。
- 現在の仕事には問題ないが、資格など自分のキャリアアップにもなることをしておけばよかったと思う。
- スキルアップと健康維持が課題です。優しさと強さを併せ持つのはかなり難しいことです。
- 早朝・夜間等の保育機関が欲しい
- 夫の仕事が不規則で、睡眠時間が少なく体力がない
- 市内に病児保育がなく、近くに頼る人がいないため休む場合、父母のどちらかが休むことになる。どちらも職場に迷惑をかけてしまうので（職場に理解はあるものの…）病児保育があると助かる。病気の時こそ、子供のそばにはいたいのですが…。
- 病気になると、自分の仕事を休まないといけないので、不安。
- 車がない。（1台しかないなので、週2~3日しか働けない。）
- 毎日ではないが、年に数回、夜の仕事の時に子どもを安心してみてくれる人・ところ。
- 離婚し1人で子どもを育てていくことに少し困難を感じることもある
- もっと気軽に行ける雰囲気を利用したい。はじめなかなか利用しづらい
- 自分が体調をくずした場合、保育が困難でも、園まで連れて行ってくれる人も居ないので、結局は自分で世話をしなくてはいけない。
- 子どもが小さいため、正社員で働くことが難しい。パートの給料、時間。
- 長時間の就業は体力的に負担が大きく、家事が疎かになってしまいそう。子供を保育してくれる施設が増えてほしい。
- 自分も仕事を始め、家事、育児、やるが増えました。休日は休日で忙しくて、でも充実しています。
- 仕事と育児の両立の難しさを感じている。帰宅後、なかなか自分の時間を取れないこと。どのお母さんも乗り越えてきたことだと思うので頑張ろうとは思っている。

【仕事に対して】

- あまり資格を持っていない
- パートタイムでも、時間で保育料が発生したりするので、働いた時間より保育料のかかる時間が長くなってしまう
- 忙しい
- 結婚、子育てと妊娠する前はパートをしてましたが、子育て期間中のブランクがもし仕事をする事になったら大丈夫？かなと思っています。
- 遅くても7時までしか預かってもらえないのに終わる時間が遅く間に合わないので仕事を続けるのが難しい
- 長期間働く共働きの女性への対応は結構厳しいと感じます。
- 子育てをしながら仕事をする為のフォローをしてもらえるような社会になればなと思います。
- スキルがない
- もう少し、時間の融通がきくと良い。
- フルタイムで働けない。(パートナーや子育て(幼稚園)の制約が多いため。)
- 非常時でも家庭より仕事が優先になるので…子どもが早く大きくなってくればと思う。
- 家業なので無理を言えないところもあって定休日以外は休みはほぼなく大変
- 子育てしやすい環境になってほしい。Ex.休みなど取りやすい、残業をあまりさせない、9:00~16:00など時間指定しても働きやすくしてほしい。
- 急な休みを取りにくい。会社の待遇が良くない。(育休・産休)
- 託児所付きの職場なので、とても助かっています。そういう所が増えてくれたらママ達も働きやすいと思う。
- 子供が熱を出したり、病気になったり、急に休まなくてはならないことが多々あり、職場に迷惑をかけ、自分もマイナス思考になってしまう。小さい子供がいても、のびのび働ける社会になってほしいなあと思います。
- 色々な面で配慮してもらっているが、来年以降はどうなるのかわからないという不安はある。
- 早出や残業、交代勤務が出来ない。有給休暇の使用が増える。
- いつかは資格を取りたい。(調理師)
- 人数が早く増えて土日に休みが取れるようになってほしい。
- 働きたい母親は現在たくさん居ると思うので、子育てしながら働きやすい職場環境を充実させて欲しいです。

【子育てに関して・家庭的なこと】

- 実家が遠いため平日自分の用事があれば主人に休んでもらっている
- 忙しすぎて遊べない
- 子供が興味がありそうなイベント事には時間があれば参加できれば良いなと思っています。
- これまでずっと保育園に行っていたので、週1くらいで通っていた保育園に行く予定が、働いていないのでそれも難しくなり、子どもに行きたいとダダをこねられるときに何と言ってあげれば

良いのか困ります。

- 放課後の子供達の学びの場がほしい。
- 家族は何事にも協力的で恵まれていると思います。
- 夫との家事・子育ての分担についての考え方のすり合わせ
- 料理をしている時に、面倒をみてほしいと思う。
- 毎日毎日同じような兄弟げんかなどに寛容に接することが難しい時もあり…
- 子育ての大変さを知ってほしい。ベビーシッターのようにちょっと手伝ってくれる人がいたら良いなあと思う。
- 家の周囲で小さい子どもの友達がいないので、兄妹間での遊びが主になってしまうので、休日の支援行事のようなものがあつたらいいなあと思う。
- 貯金をするほど余裕がない。旦那の仕事が遅いので、子育てはほぼ一人でしていること。
- 風邪の治りかけの時などに、もし預かってもらえると助かる。
- 頼れる人が近くにいないこと。
- 病児保育が難しい。
- 実家が遠いのでなんかあつたときが大変

【子育てに関して・社会的なこと】

- 保育料が驚くほど高い
- スポーツなどもっと力を入れさせたい。
- 子どもより仕事を優先させる働き方をしてきたので、子供には心苦しく感じる場合があります。
- 待機児童を解消してほしい。少子化と騒がれている中、子供達に対する支援を手厚くしてほしいと思います。
- 病児保育の利用に不安
- たまに夜間に面倒見てくれる人がいたら嬉しい。
- 保育園⇔家庭保育での支援の差がありすぎる
- 子どもたちには、たくさんの自然体験など、色々な経験をさせたい。
- 病気にかかってしまったら、仕事を休まなければならないが、病児保育について詳しく知る機会、方法があれば良い。
- 日曜・祝日に託児してくれる施設がないのが困る
- 体調不良になることも多々あり、病児保育利用は手続きが多すぎるように思えて面倒。他の病気をもらうのではないかという不安もあり利用する気になれない。
- 交流の場を多く作ってほしい。
- 転勤で来ているため、知り合いが少ない。
- 土日祝日も保育ができる所があるとありがたい。
- 待機児童が減るような対策をぜひお願いしたい。
- 病児保育のさらなる充実、受け入れが少ない
- 病気した時に預かってくれるところが増えてほしい。

【その他】

- 今まで仕事仕事だったので、時間的に子供と過ごすのを増やしたいと考え、職種を変えることを検討中ですが、娘にもとの仕事に「行かないの？」と聞かれると気持ちが揺らぎます。
- 月齢の低い子どもを預けることが難しいので困っている。(保育所の定員、託児料金など)
- 市から3歳以降は幼稚園入園をすすめられるようだけれど、現状で幼稚園では振休・長期休み等があり、協力してくれる人がいなければ仕事は出来ない。
- 年中無休の職場なので、土曜日の半日だけでも利用できるようなシステム考えていただくと助かります。
- 土曜日虹の家で保育があると助かる。(来年度4月から土曜日勤務に多く出勤しなければならないため。
- 子供が小さい時、頼めるようなシッターさんのような方がいらっしゃれば、お母さん方の負担が少し減ることもあるかもしれないですね(ヘルパーさんみたいな)

問6 「母と子の虹の架け橋」ではいろいろな種類の講座を実施していますが、あなたが今就労に必要な講座・訓練などの希望を教えてください。

- 宅建を勉強中なので集中講座などをしていただけたら。
- 簿記の勉強が出来れば、スキルアップして仕事の質も上がると思う。
- 秘書検定、メンタルヘルスアドバイザー
- 英語を楽しく学びたいです。
- パソコン
- パソコン講座
- パソコン、幼児救命救急講習
- 建設事務士 2級 (自分がとらないとないだけ)
- 時間の作り方講座を開いて欲しいです。(1日24hしかないので、時短テクニックなど。)
- 基本のワード・エクセル・パワポなどの講座
- 接客マナー
- 家庭でできる仕事の活用法、内職やサロン etc..
- パソコン、速記、書道
- 介護関係
- ヘルパー 接客などでも使えるマナーや話し方の講座
- 事務も資格とか

問7 今後の「母と子の虹の架け橋」に対してご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

- またヨガがあれば、予定が合えば参加したいです。
- 子どもが4月に小学生に入るので、託児をお願いすることはなくなるが、ママハウスがあるということで、何かあったらママハウスに行けると思って過ごすことが出来て、本当にありがたかったです。駆け込み寺のような存在でした。ありがとうございました。臨床心理の先生の講座とても良かったです。
- 女性として、前向きになれる講座があり、感謝しています。色々なノウハウを身に付け、自信を持って、社会参加ができるようになりたいです。
- よく考えたことと思います。
- 1人目の時は色々なイベントや講座に参加できましたが、2人目の出産の後、何かと行くのが大変になってしまい、長男が成長するにつれ、外での遊びに夢中になっていったのもあり、ママハウスに行くことが減り、スタッフの〇〇さんから、「遊びに来て」と電話をもらいました。気にかけてもらえて嬉しかったです。結局、家庭のことで行けなくなってしまいました。(義父の病気等)申し訳なかったです。ママハウスのような場所があり、良かったと思っています。
- いつもママたちのサポートをしてくれる頼りになる団体です。子育てを経験できるのはとても素晴らしいことで、同じような仲間と優しく心を通わせられる機会をいただいていることに感謝しています。
- いつもお世話になっております。毎日通う中で日々成長している姿が感じられとても感謝しております。今後ともよろしく申し上げます。
- これからもたくさん利用したいと思います。
- やりたいことをやれる。母と子の虹の架け橋でいつもあってほしいです。いつもお世話になっています。
- 今後とも”子育て”を中心とした活動を期待しています。よろしく申し上げます。
- 私が利用していた頃、資格取得のため、バスで子どもを抱っこして通っていました。その時に虹の家の方々から、丈夫な抱っこひもを提供していただき、とても助かったことを覚えています。子どものことだけでなく、そういった配慮をしていただいて、温かい気持ちになりました。
- その節は大変お世話になりました。子供も毎日喜んで通っていました。
- その節は本当にありがとうございました。虹の家があったおかげで、仕事もすることが出来、本当にありがたかったです。これからも働く方々の力になっていただけることを願っています。お身体に気を付けて頑張ってください。
- 働きたくても子供を預ける所がなく困っている人がまだまだたくさんいます。今後も釜石での活動をしていただきたいと思います。又、託児施設(虹の家)を知らない人がいます。市役所に行っても教えてくれません。私は自分で探して虹の家を知りました。多くの人に知ってもらえるような活動をお願いします。
- 保育園入園までの約一か月、産後仕事復帰をするにあたり、虹の家を利用出来たこと、又、生後五か月の子供を安心して預けられたこと、本当に感謝しています。あの一か月がなければ、たぶん復帰は出来なかったと思います。今後も、就職のみならず、頑張るママたちのリフレッ

シュにもつながる活動をこれからも続けていってほしいと思います。

- その場だけでなく、他の地域に出向いて利用方法など広めてほしい。公民館など1日だけ来るなど、仮設の談話室でもできればもっと親しめる。
- 就労に必要な講座があるのは、自分のスキルアップにもつながりとても助かります。転勤などで釜石に来た人が利用しやすいと助かる。市役所などのHPなどに情報があつたりするとわかりやすい。子どもと一緒に遊べる手遊び歌や、息抜きにネイルなども良いと思います。
 - お手拭を持たせていたら断られたのはショックだった。・口のまわりが汚れていることが多く、迎えに行くととてもさびしい気持ちになることがある。
- 小さい頃、本当にお世話になりました。狭いけど、あたたかくいつも優しく迎えてもらいました。震災後まもなかったのも、本当に支えていただきました。感謝しています。
- 行事や講座が、いつ、どのように行われているのかわからないのでDM・メール・ブログなどで内容が知れるようになれば様子がわかりそうなので利用しやすくなるのかな？と思います。
- これからも子供たちが、共同生活を通して色々なことを学べて、成長していける場であってほしいと思います。先生方もどの先生もとても良い方で良かったです。
- 虹の家でお世話になっています。優しい先生方に囲まれて、楽しく通っています。以前に（まだ0才の時）2時半頃送りに行ったとき、先生方が玩具のブロックを1つ1つ丁寧にふいていました。その場面をみて、ここまできちんとやってくれているのだなあと感じました。これからもどうぞよろしくお願い致します。
- 子どもを預かっていただき、さらに早く慣れるようにやさしくていねいに対応してもらっていることに感謝しています。4月以降は認可保育園を考えていますが、せつかくなら、慣れた場の方がいいなあとも思います。保育料のこと、給食の回数のこと…考えたいと思います。唯一の要望とすれば、給食の回数を増やしてほしいことです。
- 給食の日数を増やしてほしい。先生方は名札を付けてほしい。
- 職場復帰でママとのつながりが少なくなってしまうため、土曜日などには、ママハウスに行ってみたい。
- いつもお疲れ様です。これからも頑張ってください。

ⁱ H25年釜石市統計白書

ⁱⁱ 釜石市「釜石市復興まちづくり基本計画スクラムかまishi復興プラン」平成23年度12月22日

ⁱⁱⁱ 釜石市「かまishi復興レポート vol.4」平成27年2月

^{iv} 厚生労働省「被災3県の雇用状況について」平成26年10月分によると、釜石市の有効求人倍率1.49人（平成25年1月時点）で、1.14人（平成24年8月時点）より0.35ポイント増加。ちなみに、震災以前は0.41人（平成22年8月時点）であった。

^v 「平成25年4月0名、5月10名、平成26年4月39名、5月31名、6月30名。イオンができ、働く母親が増えたからと予測」2014年6月6日釜石市長定例記者会見より

「沿岸部の宮古市や釜石市は、震災の影響による急激な環境の変化が、待機児童数に色濃く反映された。震災前に待機児童が少なかった宮古市は13年37人に増え、14年も15人となっている。釜石市は13年4月にゼロだった待機児童が、14年は39人に急増した。県や両市によると仮設住宅を出た被災者が生活再建のために職を求め始めたほか、震災復興に向け市内で求人が増加し、女性の働く場が増えたことが一因という。」河北新報2014年6月22日

^{vi} 「釜石市男女共同参画推進プラン」より「釜石市男女共同参画推進プラン決定に関する市民意識調査報告書」2013年実施

^{vii} 「子ども・子育てニーズ調査報告書」釜石市2015年3月